

毎週日曜発行  
2021 2/28

# こども新聞 週刊がほピョンプレス

河北新報社 TEL.022-211-1111(月曜から金曜)



1611年12月2日の慶長三陸地震では、北海道から東北の太平洋岸を大津波が襲い、当時の伊達家仙台領内で1783人が犠牲になったという記録があります。

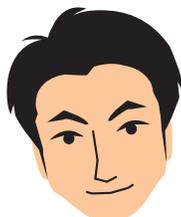
仙台市若林区霞目にある浪分神社は海岸から内陸約5キロにあり、慶長の津波が二つに分かれて引いた場所と伝えられます。白馬にまたがった海神が、大津波を南北に

きょうのテーマ

おりはらアドバイザーの

## 学ぼう防災

⑩



浪分神社 (仙台市若林区霞目2丁目15-37)



津波避難エリアと避難場所マップ(仙台市)

現在の津波避難エリアは、東日本大震災の津波到達ライン(国土地理院公表データと新たな知見をもとに浸水が確認できた区域)と同等



地図記号  
自然災害伝承碑



宮城県女川町付近の自然災害伝承碑  
出典:国土地理院(ウェブ地図「地理院地図」)



2020年3月に登録された「女川いのちの石碑」

# 新たな記号 教訓を未来に

## 地図に「自然災害伝承碑」

分けて鎮めたという伝説も残っています。

10年前の東日本大震災で、津波の浸水域は神社の数十倍手前に達しました。海神伝説は別として、過去に神社近くまで津波が来たのは本当だったようです。これほどの大津波を想像した人はほとんどいませんでした。

小学3年の社会で習う

地図記号は、建物などの種類を示すものです。電報局の記号が廃止されたりと、時代とともに変わる地図記号に2019年、「自然災害伝承碑」が生まれました。

災害の教訓を伝える石碑などを表す記号です。

きっかけは西日本を中心に洪水や土砂災害など

で多くの犠牲者が出た18年の「平成30年7月豪雨」。被災地にはかつての水害を伝える石碑が残る場所もありましたが、住民に十分知られていなかったそうです。

過去の教訓を多くの人に知らせ、繰り返される被害を減らしたい。そんな思いから、この地図記号が生まれました。

宮城県内では東日本大震災や昭和三陸地震の津波被害を伝える42の伝承

碑が登録されています。

国土地理院のホームページで石碑に刻まれたメッセージも見られます。

自分の地域でかつてどんな災害があったか。各地の石碑は私たちに何を伝えているのか。家族や友達と一緒に調べて災害に備え、皆で過去の教訓を未来につなぎましょう。

(仙台市防災・減災アドバイザー・折腹久直)

みんな思い出

みんな言いたい

みんな知りたい

みんな守ろう

みんなトモダチ

### 今週の注目ニュース

◇3月1日(月) 高校生 学びや巣立つ

多くの高校で卒業式があるよ。宮城県内の県立高では一部を除く82校で開催されるんだ。新型コロナウイルスの影響で、部活動や行事などが制約されて大変だった高校最終年を乗り越えた3年生を温かく送ろう。

### ページの紙面

- 2面 ニコ☆プチ
- 3面 3分チャレンジ
- 4・5面 いいね 小学校
- 6面 絵でわかる こども英語
- 7面 投稿特集
- 8面 子育て・教育相談コーナー